

# “ふじのくに”士民協働事業レビュー結果

(くらし・環境部)

事業番号	11	事業名	ユニバーサルデザイン推進事業費
------	----	-----	-----------------

## 1 基本情報

実施日/班名	9月7日 第3班	時間	13:27~14:33
担当課名	政策監(UD担当)	事業費	11,700千円

## 2 レビューの結果 施策を推進する効果の程度

結果	あまり効果がない	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	4
			一定の効果がある	8
			あまり効果がない	17

## 3 県民評価者の意見

### (1)見直し・改善策

目的指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策に対する評価指標が適切でないのでは。UD大賞で住みやすい街と感じられない。</li> <li>・ 何か一つ(この事業の目的)を深掘りしていくことがよい。住みやすい町とは概念が漠然としているので、質問によってどうにも変わってしまう。(あまり参考にならない)</li> <li>・ P117 成果目標を補完する指標で「調査なし」とあるが、調査しなかったのでしょうか。調査しないのなら指標にする必要性がない。UDの周知度を上げる具体的な施策を考えるようにしてほしい。</li> </ul>
対象範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての市町にUD担当者が設置されている状況から、県がこれ以上関わる必要はないのでは。ただし、老人、障害者などに対するUDに絞って、各市町がどこまで進んでいるかを比較してみる必要を感じる。</li> <li>・ 「暮らしにくい」と感じている市民にターゲットを絞り、力を入れる部分を明確にしていってほしい。</li> </ul>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ UD出前講座は、学校からの依頼ではなく、全校に実施すべき。</li> <li>・ 障害者と一緒に過ごす時間を子供達に体感させるなど、気持ち、考えの展開が重要である。</li> <li>・ ¥11,700,000では収入が少なくて活動できない。予算を多くして大いに活動してほしい。</li> <li>・ ユニバーサルデザインそのものが大きすぎて、とらえられない。もっと啓蒙に力をいれて、県民全体に伝わるようにしてほしい。</li> <li>・ どうしても目に見えるハード面、物品におけるユニバーサルデザインに予算を使うようになると思うが、基本となる「心のバリアフリー」という思想の形成のためになるような取り組み、例えば「物品のデザイン」に賞を出すと同じように「考え方」を広めていくことに力を尽くすというふうな。ユニバーサルデザインというと、形あるものことと思う方が多いと思うので、心をアピールしてください。</li> <li>・ 啓発事業の手法について、UD製品や体験発表などを幅広く広報すべきである。また、目指すものをもう少し絞りこんで対応した方が良いのでは。</li> <li>・ この事業は手を広げると、きりも果ても無いことになる。優先的に整備・対処する地区等を定め進めたらどうか。</li> <li>・ 施策と実績との因果関係が、何らかの形で具体的に表われていれば良いのではないか。</li> <li>・ 講座・表彰の後の提案もしてみてもどうでしょう。アイデアを実際に形にするに当たり、試作・製作してくれる事業所の紹介等があれば推進事業がもっと広がる。</li> </ul>

事業内容

- ・難聴者に対し、図書館会議室で火災報知機がなった場合分からないので、標示板（火災発生）の標示を設置したらどうか。 - 建築基準法等
- ・推進する体制が届いていないので、県民の望む体制に作り変える必要がある。
- ・広がりをもっと考える必要がある。
- ・ふじのくにUD大賞は応募者数も伸びていないので、開催することも検討し直すべきではないか。
- ・「暮らしやすい」という感覚は気付かないこともあるが、「暮らしにくい」という感覚は敏感である。何が必要かは絞っていきけるのではないか。誰が、何が「暮らしにくい」と感じているかをテーマにしてUD大賞を募集する。（アイデアはなくとも意識は高まる）
- ・高齢化社会をむかえ大きく推進させてもらいたい。
- ・UD出前講座などはNPOなどに委託して、もっと多く開催できないのか。
- ・ふじのくにUD大賞に「小学生の部、アイデア」入賞作品を目にしました。裾野に住んでいます。地元の児童のアイデアの素晴らしさに感動しました（私の勉強不足ですが）。もっと知りたい…県民だよりは目にしますが、東部の方にももっともっと発信してください。
- ・「大きな効果がある」が、ただし、組織横断的な体制を強化。総花的にならず、戦術目標（戦略ではなく）の具体的な達成を目指すべき。
- ・幅が広く効果が上がらないのでは。もっと絞ってやれば。年度ごとに「今年度は〇〇事業を重点に実施する」とか変えてやってみても良いのでは（その時のニーズで）。
- ・目的を明確化して推進する。講座の充実を図る。
- ・県民への周知努力が必要である。
- ・学生などに協力をしてもらうなどの工夫をして、活動のアピールをする。
- ・住む人が暮らしやすい社会を実現するためにUDを取り入れたまちづくり、思いやりのある人づくりをしなければならない。
- ・ユニバーサルデザインの推進は素晴らしいものであるが、それを県民に知ってもらう活動にも力をかけるべきだ。
- ・UDの推進まで行政で行う必要があるとは思えません。公共施設に取り入れてくれるのはありがたいが、夢のようなアイデア（←実際に実現可能で、行政として利益となるものなら分かりますが）を募集したりするのは、不要と感じる。また、講座は1人当たり約16千円近くかかっているが、それに見合った効果はないと感じるし、講座だけでは何も利益にはつながらず、「あーそうなんだ」というだけで終わってしまう。
- ・ユニバーサルデザインを理解して何につながるのか不明。そんなことにお金を使うなら、実際に使えるものを購入してくれた方がよっぽどいい。また、そのような内容ならネットに掲載したり、広報しずおか等に（年1度位）載せてくれれば十分である。
- ・UDデザインのもの自体を案内したり、講座を開いたりするくらいなら、そのようなものを使用する必要のある方とふれあう機会を設け、その際に補足で「このようなデザインだどこのようによい」と教えたほうがいい。
- ・コンセプトが余りに巨大すぎて、なかなか心に染み渡ってこないです。言葉自体をもっとかみくだいて、文字どおりすべての人に理解できるようにしていけばと思います。
- ・アイデアを募集するなら、特許を取れるくらいの内容でなければただの自己満足であり、そのような自己満足に税金を使用しないでほしい。また、企業はそのようなデザインに関してもっと先を進んでいると思う。聞かれたら「参考になりました」とは言うと思うが…。参考になった方は何度も参加しているのでしょうか。何度も参加していないようなら参考にはなっていないと思います。
- ・学校への展開、特に小中学校への講座は学校からの依頼があればやっているという形になっていたかと思うが、PRの場としてこれは各学校で各生徒たちが一回やるというような姿にすると、教育の部分で役に立つのではないかと思う。

## (2)その他の意見

- ・推進施策体系Ⅰ～Ⅲ、今は逆の順の優先度。
- ・UDがすべての人のためデザインとは知りませんでした。UDが単に子どもたちの絵画としかとらえていませんでした。勉強になりました。知る手立てが今、分かりました。
- ・各町に小さな公園はあっても人がいない。大きな公園には子供はいない。住みよいとは、人の集まる場所があることと思います。
- ・平成11年度から進めている事業ならば、他県にはない、ずば抜けた特色がないのをさみしく感じた。
- ・P118 指標36がよく分からない。(多すぎないか)
- ・P117 ふじのくにUD大賞応募者は、講座受講者が少ないのでは。
- ・UD、ユニバーサルデザイン自体を知りませんでした。
- ・対象が大きすぎて、行動がぼやけているのでは。
- ・ユニバーサルデザインという言葉が理解されていない。(分かりやすい言葉にする必要あり)。したがって、市町もただ施設づくりで作りやすいところからやっているにすぎない。時代に反することができないので、手さぐりでやっているように思う。
- ・出されたアイデアがどう生かされているのか。企業と結び付ける試みがなされているのか。
- ・一般人には内容が分かりにくい上に、主な事業内容が最終的には大柱につながるとは思えない。
- ・UDは、とても今の時代に必要な事業の一つだと思います。何年か前には身近に感じられて新鮮でしたが、最近知名度も低くなっているようです。やはり県民が興味を持てるようになってほしいと思います。
- ・色々な部局で実施されているので、大変幅広くやっていることは評価できるが、県民に反映されているかと言うと、そう思われていないと感じる。
- ・型にとらわれすぎているように思う。UD実践講座とかコンクールとか、その開催自体が目的となっているように思える。
- ・市町においても何をすべきか、理解していないように感じる。
- ・事業の範囲・対象が広く、毎年各種の事業を手がけているが、そのほとんどが啓発事業となっている。そのため、その成果、効果が分かりにくく、県民においても意識が薄い感がある。これは実績値からも明らかと思われる。
- ・ふじのくにUD大賞は費用対効果に疑問が残る。参加人数があまりにも少ない。
- ・素晴らしい事業をされているのに、このままだと残念です。広げていくためにも、皆で手を取り合っていきたい。
- ・実践講座等が身になっているとは思えない。
- ・ユニバーサルデザインが普及していくことで、障害を持った方や、ご高齢の方でも一人で行えることが多くなるが、人とのつながりが少なくなってしまうことはないか。